

はじめに

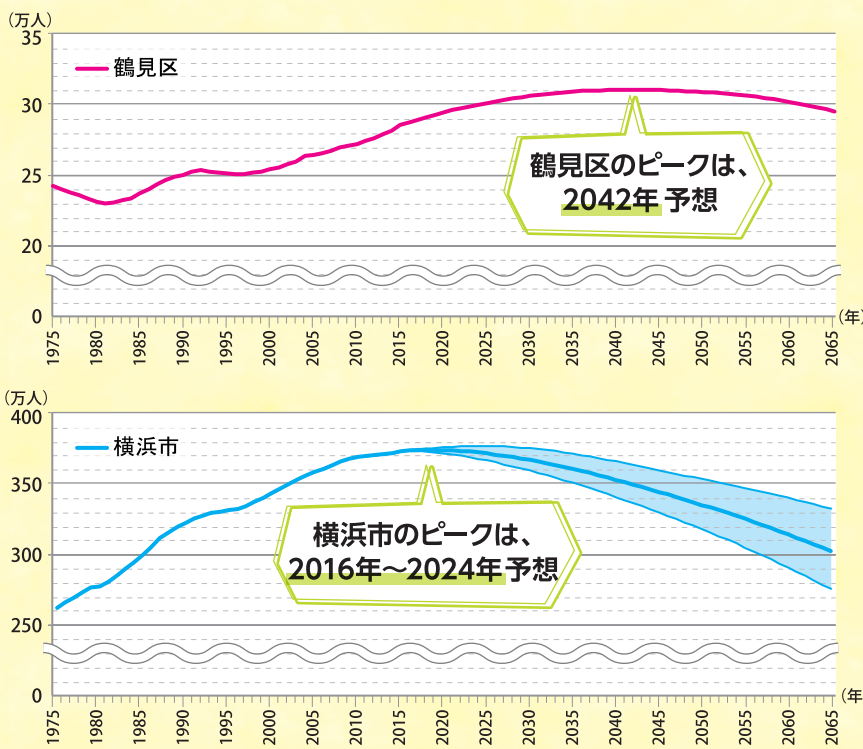
令和4年度は、沖縄の本土復帰50年を記念して制作された連続テレビ小説「ちむどんどん」(NHK)の舞台の一つとして鶴見が登場し、全国的に注目が集まりました。

京浜工業地帯の一角に位置する鶴見区は、戦前より、沖縄をはじめ全国から移住者を受け入れてきました。移住者の多くは工場で働き、戦後日本の高度経済成長を支えてきた産業の発展に大きく関わりました。

産業の発展とともに、まちも発展した鶴見区の現在の人口は約29万5千人(市内18区中第3位)、世帯数は約14万6千世帯(同第2位)です。

本冊子「発見つるみ!データで見る鶴見区」は、人口や産業をはじめ、生活に関する様々なデータを、鶴見区の特徴をとらえながらわかりやすくまとめています。これまでの鶴見、そして、これからの「いつまでも住み続けたいまち・鶴見」を考えていただく際の資料として、ご活用いただければ幸いです。

COLUMN



鶴見区の人口は 2042年がピーク!?

横浜市では5年ごとに行われる国勢調査をもとに将来の人口を予想しています。平成29年(2017年)に公表された将来推計人口では、横浜市の人口のピークは平成28年(2016年)~令和6年(2024年)におとずれ、その後減少すると予測される中、鶴見区は令和24年(2042年)を目安に人口のピークを迎えると予測されています。

※2016年以降は、2015年の国勢調査に基づいた推計値

人口の統計情報はP4以降に掲載しているよ!



資料: 統計情報ポータル
長期時系列データ(人口・世帯)、
横浜市将来人口推計(政策局)